

宜野湾市立学校施設の耐震化状況集計表

令和8年4月現在

種 別	建 物 区 分	全 棟 数 A=(B+C) ※1	耐震性がある 建物の棟数 B	耐震補強が必要及び 耐震性の確認を必要と する建物の棟数 C ※2	耐震化率(%) D=(B/A)
小学校 (9校)	校 舎	23	23	-	100.0%
	体育館	9	9	-	100.0%
	計	32	32	-	100.0%
中学校 (4校)	校 舎	13	13	-	100.0%
	体育館	4	4	-	100.0%
	計	17	17	-	100.0%
計 (小・中学校)		49	49	-	100.0%
幼稚園 (5園)	園 舎	5	5	-	100.0%
合計 (小・中学校・幼稚園)		54	54	-	100.0%

※1 非木造の2階以上または延べ面積200㎡超の建物が対象。

※2 詳細な耐震診断(第2次診断)により、耐震性が確認される可能性のある棟数も含まれる。

※3 現在改築中に伴い解体した建物及び仮設校舎等へ機能移転を行った建物は含まない。

※4 一時使用建物(仮設校舎等)は含まない。

※5 幼稚園から認定こども園へ移行となった施設は含まない。

各学校施設の耐震診断調査結果及び耐震化状況（小学校）

- 耐震性がある建物
- 耐震性の確認を必要とする建物
- 改築に伴い解体した建物
- 改築に伴い機能移転した建物

■小学校(昭和56年 5月31日以前に建築確認を受け建設された非木造建物で、2階以上または延べ面積200㎡超の建物が対象)

令和8年4月現在

No.	学校名	区分	棟番号		建築年月	構造	階数	面積(㎡)	区分(耐震基準)		耐震診断						耐力度調査		備考
			番号	枝番							耐震化優先度調査		第1次診断		第2次診断		年度	点数	
											年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値			
1	普天間小学校	校舎	36	1	R5.02	R	3	4,557	新	基準									
	"	"	"	2	R5.02	R	3	164	新	基準									
	"	校舎	37	0	R5.02	R	3	2,449	新	基準									
	"	体育館	29	0	H11.11	R	2	1,215	新	基準									
2	普天間第二小学校	校舎	12	0	H08.01	R	4	1,168	新	基準									
	"	校舎	13	0	H08.01	R	4	2,241	新	基準									
	"	校舎	14	1	H08.01	R	4	2,802	新	基準									
	"	校舎	18	0	H24.03	R	3	619	新	基準									
	"	体育館	15	1	H08.03	R	3	1,101	新	基準									
3	大山小学校	校舎	16	1	H02.12	R	5	3,326	新	基準									
	"	"	"	2	H02.12	R	5	217	新	基準									
	"	"	"	3	H03.12	R	5	166	新	基準									
	"	校舎	17	1	H03.12	R	5	3,194	新	基準									
	"	"	"	3	H07.09	R	5	66	新	基準									
	"	体育館	18	1	H05.03	R	2	1,173	新	基準									
4	宜野湾小学校	校舎	19	0	H06.02	R	3	3,913	新	基準									
	"	校舎	20	1	H06.03	R	3	3,255	新	基準									
	"	校舎	21	0	H06.02	R	3	51	新	基準									
	"	校舎	23	0	H14.03	R	2	113	新	基準									
	"	体育館	22	1	H10.01	R	3	1,214	新	基準									
	"	"	"	3	H12.03	R	3	81	新	基準									
5	嘉数小学校	校舎	30	0	H22.02	R	3	3,003	新	基準									
	"	校舎	31	0	H22.02	R	3	4,717	新	基準									
	"	体育館	33	0	H26.02	R	2	1,215	新	基準									
6	大謝名小学校	校舎	11	0	H13.11	R	2	2,748	新	基準									
	"	校舎	12	1	H13.11	R	2	3,349	新	基準									
	"	体育館	22	1	R03.04	R	3	1,266	新	基準									
	"	"	22	2	R03.04	R	3	189	新	基準									
7	志真志小学校	校舎	12	1	R01.07	R	4	3,969	新	基準									
	"	"	"	2	R01.07	R	4	233	新	基準									
	"	校舎	13	0	R01.07	R	4	3,681	新	基準									
	"	体育館	11	0	H30.02	R	2	1,238	新	基準									
8	長田小学校	校舎	1	1	H11.02	R	4	1,990	新	基準									
	"	校舎	2	1	H11.03	R	4	3,021	新	基準									
	"	"	"	2	H11.06	R	4	122	新	基準									
	"	"	"	3	H16.03	R	4	120	新	基準									
	"	"	"	4	H16.03	R	4	482	新	基準									
	"	校舎	6	1	R07.03	R	2	535	新	基準									
9	はごろも小学校	校舎	1	1	H26.02	R	4	4,483	新	基準									
	"	"	"	2	H26.02	R	4	216	新	基準									
	"	校舎	2	1	H26.02	R	3	2,947	新	基準									
	"	体育館	3	0	H25.12	R	3	1,215	新	基準									

※用語の説明

- ・旧基準…昭和56年の建築基準法改正以前に用いられた耐震基準。
- ・新基準…昭和56年の建築基準法改正後に用いられた耐震基準。
- ・耐震化優先度調査…耐震診断実施の優先順位を判断するための簡易な判断方法。（学校施設のみに適用）
（結果が①～⑤までの段階のランクに判断され、小さい数字ほど優先度が高い）
- ・耐震第1次診断…柱や壁の量から建物の強度を基準に診断する手法で、壁量の多い建物に適した簡便な判定法。
- ・耐震第2次診断…柱と壁の強度と靱性を考慮して耐震性能を算出する手法で、1次診断より精密な判定法。
- ・Is値…建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
- ・q値…建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
- ※文部科学省では、Is値がおおむね0.7を超えることと、q値が1.0を超えることとしています。
- ・耐力度調査…構造耐力や保存度及び外力条件について耐力度調査票により測定する調査。
（耐力度点数[10,000点満点]がRC造等で5,000点以下になった建物を構造上危険な状態にある建物『危険建物』という。） ※平成20年度より4,500以下が危険建物

各学校施設の耐震診断調査結果及び耐震化状況（中学校）

- 耐震性がある建物
- 耐震性の確認を必要とする建物
- 改築に伴い解体した建物
- 改築に伴い機能移転した建物

■中学校(昭和56年 5月31日以前に建築確認を受け建設された非木造建物で、2階以上または延べ面積200㎡超の建物が対象)

令和8年4月現在

No.	学校名	区分	棟番号		建築年月	構造	階数	面積(㎡)	区分(耐震基準)		耐震診断						耐力度調査		備考	
			番号	枝番							耐震化優先度調査		第1次診断		第2次診断		年度	点数		
											年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値				q値
1	普天間中学校	校舎	13	0	S59.03	R	3	1,495	新	基準										
	"	校舎	14	0	S59.12	R	4	1,605	新	基準										
	"	校舎	15	0	S59.12	R	3	1,980	新	基準										
	"	校舎	16	0	S61.03	R	3	2,062	新	基準										
	"	校舎	18	1	S62.03	S	2	130	新	基準										
	"	体育館	19	1	H07.03	R	2	1,335	新	基準										
2	"	"	3	H07.03	R	2	353	新	基準											
	嘉数中学校	校舎	28	1	H19.10	R	4	4,820	新	基準										
	"	"	"	2	H19.10	R	5	99	新	基準										
	"	"	"	3	H19.10	R	5	69	新	基準										
	"	校舎	29	1	H19.10	R	4	3,292	新	基準										
3	"	体育館	16	1	H03.03	R	3	1,240	新	基準										
	"	"	"	3	H03.03	R	3	363	新	基準										
	真志喜中学校	校舎	13	0	H24.03	R	3	3,584	新	基準										
	"	校舎	14	0	H24.03	R	3	3,951	新	基準										
	"	校舎	15	1	H24.03	R	3	574	新	基準										
	"	"	"	3	H24.03	R	3	166	新	基準										
4	"	体育館	17	1	H26.03	R	2	1,550	新	基準										
	"	"	"	2	H26.03	R	2	422	新	基準										
	宜野湾中学校	校舎	1	1	S61.02	R	3	5,442	新	基準										
	"	"	"	2	H01.03	R	3	25	新	基準										
	"	"	"	3	H12.03	R	3	80	新	基準										
	"	"	"	4	H18.03	R	3	225	新	基準										
	"	校舎	6	0	H12.03	R	2	459	新	基準										
	"	校舎	7	1	H24.10	R	3	460	新	基準										
"	"	"	2	H24.10	R	3	599	新	基準											
"	"	"	3	H24.10	R	3	163	新	基準											
"	体育館	2	1	S61.03	R	2	1,078	新	基準											

※用語の説明

- ・旧基準…昭和56年の建築基準法改正以前に用いられた耐震基準。
 - ・新基準…昭和56年の建築基準法改正後に用いられた耐震基準。
 - ・耐震化優先度調査…耐震診断実施の優先順位を判断するための簡易な判断方法。（学校施設のみに適用）
（結果が①～⑤までの段階のランクに判断され、小さい数字ほど優先度が高い）
 - ・耐震第1次診断…柱や壁の量から建物の強度を基準に診断する手法で、壁量の多い建物に適した簡便な判定法。
 - ・耐震第2次診断…柱と壁の強度と靱性を考慮して耐震性能を算出する手法で、1次診断より精密な判定法。
 - ・Is値…建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
 - ・q値…建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
- ※文部科学省では、Is値がおおむね0.7を超えることと、q値が1.0を超えることとしています。
- ・耐力度調査…構造耐力や保存度及び外力条件について耐力度調査票により測定する調査。
（耐力度点数[10,000点満点]がRC造等で5,000点以下になった建物を構造上危険な状態にある建物『危険建物』という。） ※平成20年度より4,500以下が危険建物

各学校施設の耐震診断調査結果及び耐震化状況（幼稚園）

- 耐震性がある建物
- 耐震性の確認を必要とする建物
- 改築に伴い解体した建物
- 改築に伴い機能移転した建物

■幼稚園(昭和56年 5月31日以前に建築確認を受け建設された非木造建物で、2階以上または延べ面積200㎡超の建物が対象)

令和8年4月現在

No.	学校名	区分	棟番号		建築年月	構造	階数	面積(㎡)	区分(耐震基準)		耐震診断						耐力度調査		備考	
			番号	枝番					耐震化優先度調査		第1次診断		第2次診断		年度	点数				
									年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値			q値			
1	普天間幼稚園	園舎	2	0	H07.03	R	1	574	新	基準										
2	普天間第二幼稚園	園舎	4	0	H08.03	R	1	559	新	基準										R8年度より認定こども園へ移行
3	大山幼稚園	園舎	5	1	H05.02	R	2	595	新	基準										R7年度より認定こども園へ移行
4	宜野湾幼稚園	園舎	2	0	H13.03	R	1	682	新	基準										
5	嘉数幼稚園	園舎	4	1	H07.03	R	2	555	新	基準										R8年度より認定こども園へ移行
			"	"	"	2	H14.03	R	2	318	新	基準								
6	大謝名幼稚園	園舎	2	0	H18.02	R	2	725	新	基準										
7	志真志幼稚園	園舎	4	0	H29.11	R	1	974	新	基準										
8	長田幼稚園	園舎	1	0	H11.02	R	1	556	新	基準										
9	はごろも幼稚園	園舎	1	0	H26.03	R	1	957	新	基準										R8年度より認定こども園へ移行

※用語の説明

- ・旧基準…昭和56年の建築基準法改正以前に用いられた耐震基準。
 - ・新基準…昭和56年の建築基準法改正後に用いられた耐震基準。
 - ・耐震化優先度調査…耐震診断実施の優先順位を判断するための簡易な判断方法。(学校施設のみに適用)
(結果が①～⑤までの段階のランクに判断され、小さい数字ほど優先度が高い)
 - ・耐震第1次診断…柱や壁の量から建物の強度を基準に診断する手法で、壁量の多い建物に適した簡便な判定法。
 - ・耐震第2次診断…柱と壁の強度と靱性を考慮して耐震性能を算出する手法で、1次診断より精密な判定法。
 - ・Is値…建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
 - ・q値…建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、値が大きいほど耐震性が高い。
- ※文部科学省では、Is値がおおむね0.7を超えることと、q値が1.0を超えることとしています。
- ・耐力度調査…構造耐力や保存度及び外力条件について耐力度調査票により測定する調査。
(耐力度点数[10,000点満点]がRC造等で5,000点以下になった建物を構造上危険な状態にある建物『危険建物』という。) ※平成20年度より4,500以下が危険建物
- ※幼稚園から認定こども園へ移行となった施設は含まない。